

# 社会ニーズ把握に向けた調査結果 (概要)

# 1. 調査方法

- 紙オムツを使用する一般消費者と介護関連施設を対象にアンケート調査を実施。
- 使用済み紙オムツに関して、処理装置の利用意向や廃棄の実態(困っていること)を把握。

調査対象	①紙オムツを使用している一般消費者	②介護関連施設
標本数	紙オムツを使用している方(2,939名) <sup>※1</sup> - 家族の介護をしている方(1,078名) - 育児をしている方(1,511名) - 尿もれ・便もれの症状のある方(350名)	介護関連施設(165施設) <sup>※2</sup> - 介護付き有料老人ホーム(136施設) - 住宅型有料老人ホーム(31施設) - サービス付き高齢者向け住宅(2施設)
調査手法	インターネットによるアンケート	ファクシミリによるアンケート
調査期間	平成30年12月20日～26日	平成31年1月11日～18日
主な調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用済み紙オムツ処理装置に対する利用意向</li> <li>・ 使用済み紙オムツ・パッド類を廃棄する際の課題(困っていること)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>保管場所について</u> 保管場所のにおいが気になる、保管場所を確保しづらい、保管場所の衛生管理が負担</li> <li>・ <u>ごみ出しについて</u> ごみ収集場所への運搬が重労働、ごみ収集場所のにおいが気になる</li> <li>・ <u>外出先での処分について(一般消費者)</u> 外出先で捨てられない、持ち帰る際のにおいが気になる、持ち帰る際に重い</li> </ul> </li> </ul>	

※1 アンケートへの回答があった4,722名のうち、「紙オムツ・パッド類を使用している」と答えた人の回答を分析の対象とした。

※2 介護関連施設約1,600箇所に協力を依頼し、回答があった165施設の回答を分析の対象とした。

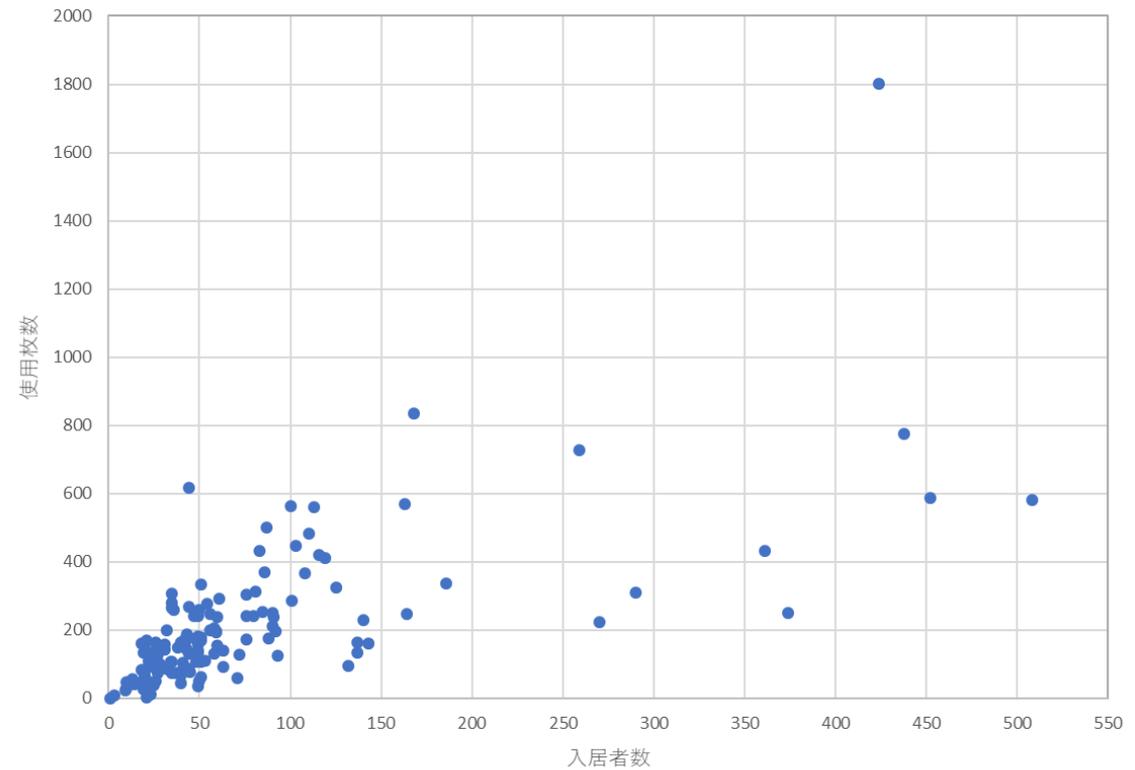
# 2. 回答者の属性

## 【一般消費者】

一般消費者		N数	割合
全体		4722	100%
性別	男性	1979	41.9%
	女性	2743	58.1%
年代	19歳以下	4	0.1%
	20～29歳	410	8.7%
	30～39歳	1200	25.4%
	40～49歳	953	20.2%
	50～59歳	980	20.8%
	60～69歳	780	16.5%
	70～79歳	334	7.1%
	80歳以上	61	1.3%
地域	北海道・東北地方	737	15.6%
	関東地方	1098	23.3%
	中部地方	766	16.2%
	近畿地方	847	17.9%
	中国・四国地方	646	13.7%
	九州・沖縄地方	628	13.3%
紙オムツ・パッド類を使用している人		2939	62.2%

## 【介護関連施設】

介護関連施設の入居者数(人)と  
日当たり紙オムツ使用枚数(枚/日)

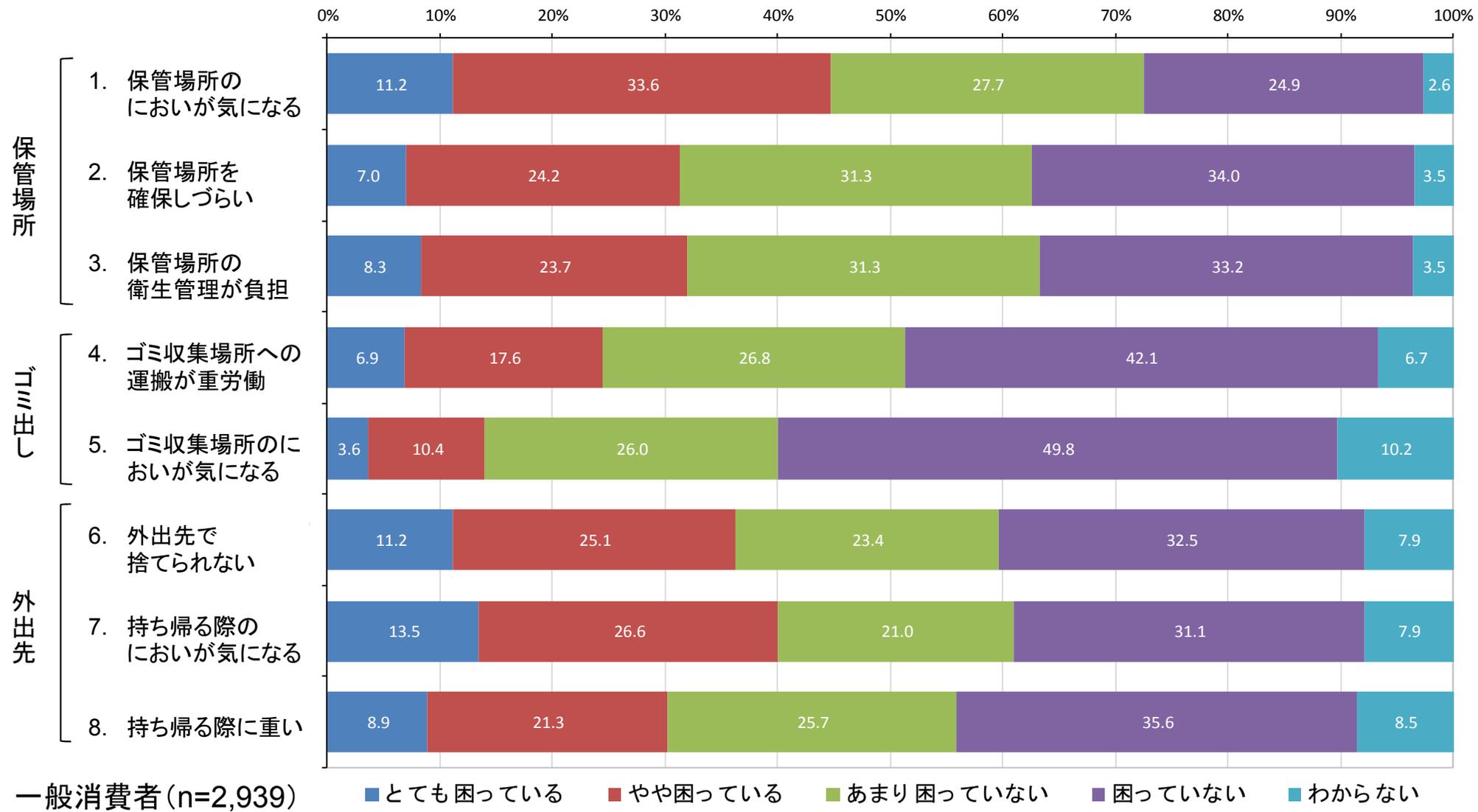


注) アンケートに入居者人数または使用枚数の回答が  
得られなかった施設はグラフに示していない。

注) 本調査の集計においては、家族の介護をしている方、育児をしている方、尿もれ・便もれの症状のある方のなかで、それぞれ紙オムツ・パッド類を使用している人を集計の対象とした。

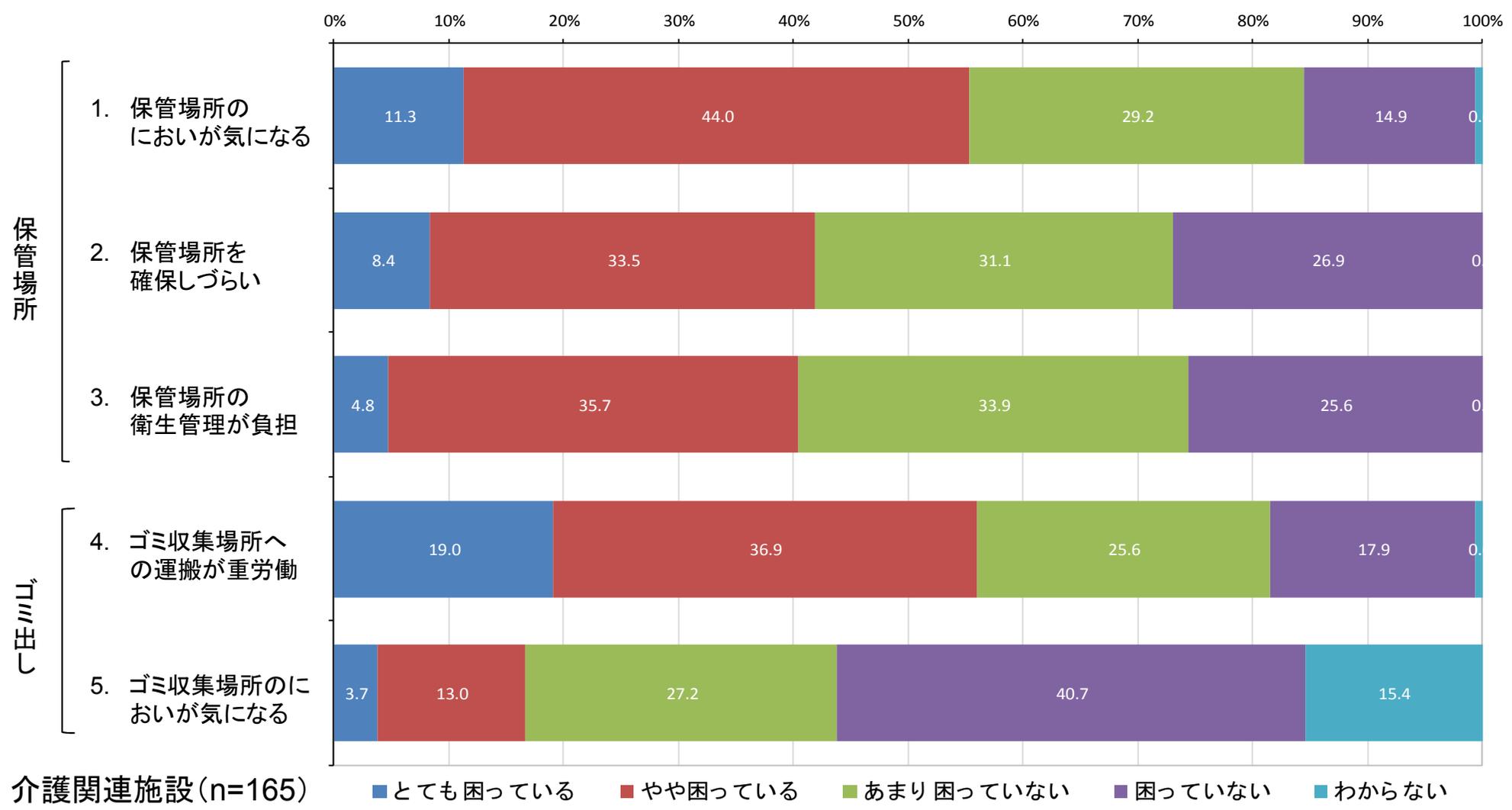
# 3. オムツを廃棄するときに困っていること（一般消費者）

- 紙オムツを使用している消費者の3~4割が、使用済み紙オムツを廃棄する際の保管場所や外出先での取扱いに苦慮。
- 特に、保管場所や外出先での『におい』を気にする消費者が多い傾向。



# 4. オムツを廃棄するとき困っていること（介護関連施設）

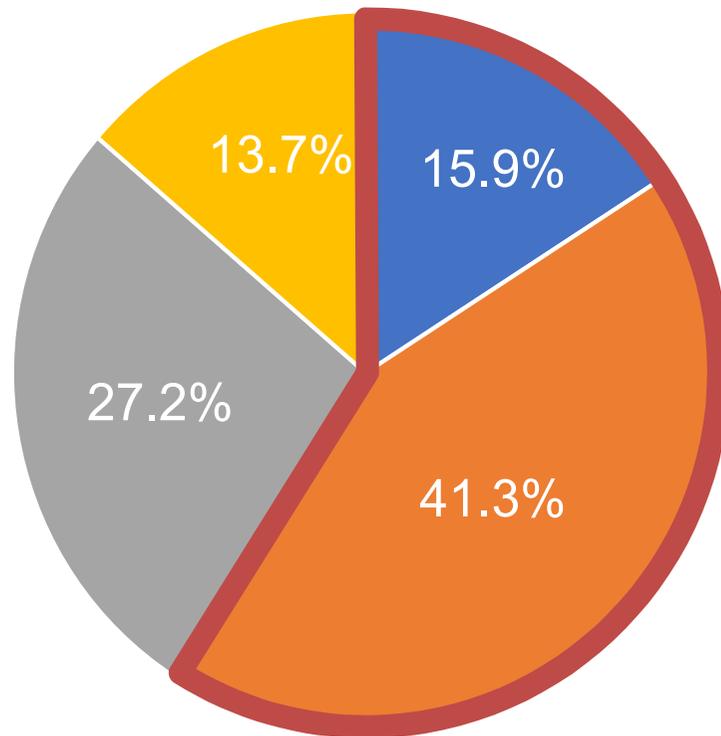
- 介護関連施設においても、使用済み紙オムツの保管場所での取扱いに苦慮。
- さらに、半数以上がゴミ収集場所への運搬が重労働に感じる。



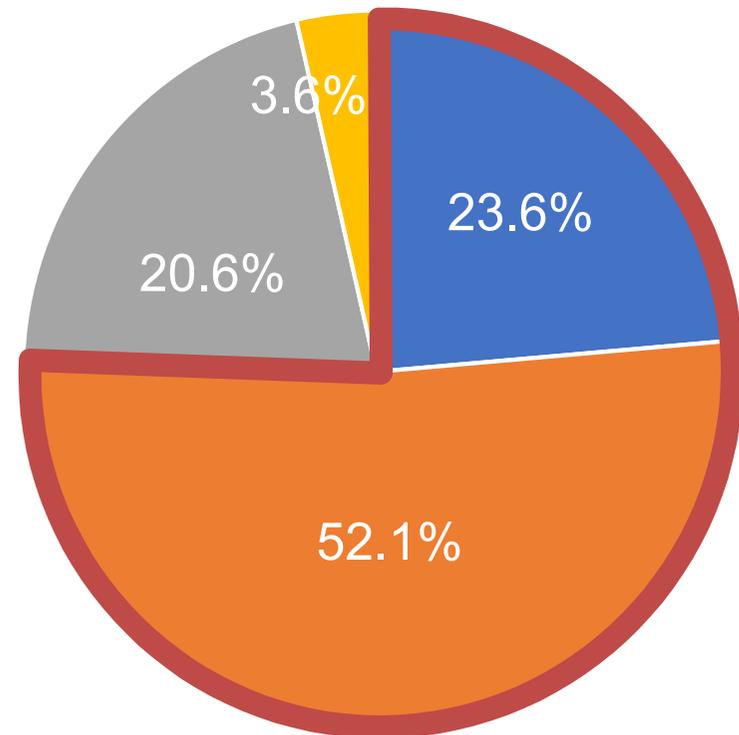
# 5. 紙オムツ処理装置の利用意欲

- 一般消費者の約6割、介護関連施設の約8割が使用済み紙オムツ処理装置を利用する意向あり。

一般消費者 (n=2,939)



介護関連施設 (n=165)



■ とても使ってみたい ■ どちらかというに使ってみたい ■ あまり使いたくない ■ まったく使いたくない